

先月の報道を中心に、サイバーセキュリティに関するニュースを抜粋してお届けしています

ランサムウェア
(Ransomware)

被害を受けた企業が、
さらに被害請求を受ける
事態に？

ランサムウェア攻撃で被害を受けた「社労士向け業務システム」運営元をユーザーが提訴、3億円を請求へ！

2023年6月、社労士向けクラウド業務システムがランサムウェア攻撃を受け、個人情報の暗号化やサービス停止などの深刻な被害が発生しました。これにより、利用者は業務に大きな支障をきたし、個人情報漏洩の懸念も生じました。事故後、システムの運営会社の対応に不満を持つユーザーらは民事調停を申し立てましたが、2025年6月に不成立となり、利用者の一部（90人）が同社を相手取り、大阪地方裁判所に総額3億1228万9777円の損害賠償請求を提起したと発表しました。訴状には、「そもそも設定自体が現在のクラウドサービスとして絶対にあってはならないほど危険なものであった」などと企業の情報管理責任が問われる事態となっています。

他人事ではない！ ランサムウェアの脅威

ランサムウェアと呼ばれる被害が急拡大し、企業や組織の事業活動への大きな脅威となっています。ランサムウェア(Ransomware)とは、悪意のあるプログラムであるマルウェアの一種で、これに感染するとデータが暗号化され使えない状態に至り、その復旧と引き換えに身代金（ランサム）として金銭を脅し取ろうとするサイバー攻撃のひとつです。



ランサムウェアの脅威

- 身代金要求
情報暴露脅迫
- ランサムウェア
- 個人情報、認証情報
機密情報漏えい
- データ暗号化
業務継続不可
- 事業継続の危機
- 高額な金銭の損失

生成AIを悪用した迷惑メール被害とその対策に関する実態調査

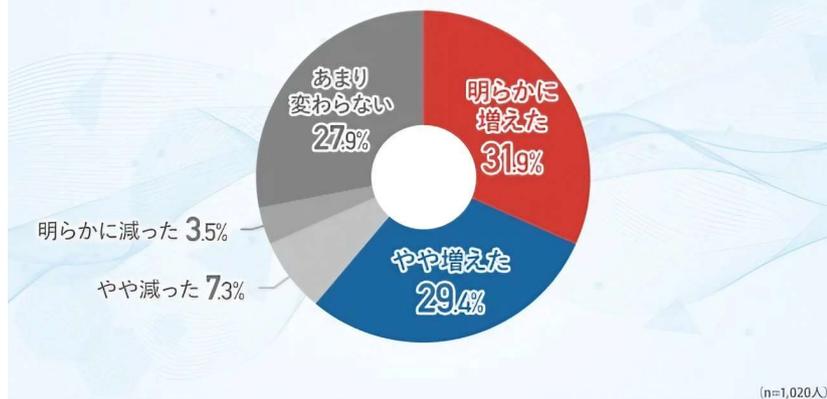
受信件数は5年前の2倍以上 迷惑メールはもはや“無視できない日常”に

はじめに、「迷惑メールの受信件数の変化」について尋ねたところ、6割以上が『明らかに増えた（31.9%）』『やや増えた（29.4%）』と回答しました。

「増えた」と回答している方が6割以上だった一方で「減った」と回答した方は1割程度にとどまっており、迷惑メールの被害を実感している方が増加していることがうかがえます。

調査元：株式会社テクノル (<https://www.mrb-security.jp/>)

迷惑メールの件数はこの数年でどう変化しましたと感じますか？



（調査対象：生成AIを悪用した迷惑メール被害とその対策に関する実態調査）
 ・調査期間：2023年9月14日（木）～2023年9月15日（金） ・調査方法：インターネット調査 ・調査人数：1,020人 ・調査元：株式会社テクノル
 ・調査対象：調査回答時に20～59歳の1年以上オンステークをしている会社員であると回答したモニター ・モニター提供元：PRIZIMAリサーチ

Technol

IPA「企業における営業秘密管理に関する実態調査2024」報告書公開

サイバー攻撃/内部不正の両方に注意

IPA（独立行政法人情報処理推進機構）セキュリティセンターは、「企業における営業秘密管理に関する実態調査2024」報告書を公開しました。あなたが所属する組織において、過去5年以内で営業秘密の漏えい事例はありましたか。過去5年以内の営業秘密の漏えい事例の経験の有無について、「明らかに情報漏えい事例と思われる事象が複数回あった」、「明らかに情報漏えい事例と思われる事象が1度あった」、及び「おそらく情報漏えいではないかと思われる事象があった」の3項目を合わせた割合は35.5%となったということです。

営業秘密の漏えいのルートについて、外部からのサイバー攻撃等に起因する漏えい（36.6%）が大幅に増加している。次いで、現職従業員等のルール不徹底（32.6%）、金銭目的（31.5%）、誤操作・誤認等（25.4%）の内部不正相当の割合が上位にならぶほか、中途退職者（役員・正規社員）による漏えいが前回36.5%から17.8%に減る結果となっています。



参照元：IPA https://www.ipa.go.jp/security/reports/economics/ts-kanri/j5u9nn000004yjn-att/TradeSecret_summary_2024_r1.pdf

ネットの認証画面装ってウイルス感染 新手口の被害急増

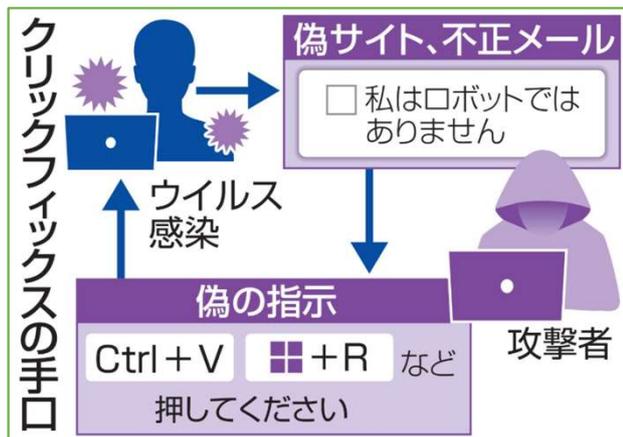
「私はロボットではありません」。そんな確認の手続きを装って利用者本人に不正なパソコン操作をさせ、気付かないうちにコンピューターウイルスに感染させるサイバー攻撃「クリックフィックス」が急増しています。複数のキーを同時に押して特定の操作を実行させる「ショートカットキー」を指示されるのが特徴です。

「ClickFix」（クリックフィックス）と呼ばれるこの手口は、インターネットのさまざまなサービスのログイン画面などで人間とプログラムを見分けるために使用される「私はロボットではありません」の認証画面を偽装します。

偽の認証画面



セキュリティ会社によりますと、偽の認証画面では表示される指示に従ってクリックやキー操作をすると不正なコマンドをコピーして実行させられてしまい、コンピューターウイルスに感染するということです。偽の認証画面にはメールやSNSなどで誘導され、ウイルスに感染するとパソコンに入力した情報や、保存しているIDやパスワードなどの個人情報流出のおそれがあります。



この指示通りに操作をすれば、良いのかな？

参照元：NHK他 <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20250907/k10014915401000.html>

IPA「情報セキュリティ白書2025」刊行

独立行政法人情報処理推進機構（IPA）は、「情報セキュリティ白書2025」を2025年9月30日に発行予定です。（記事作成時）

先行して提供されたPDF版で、2024年度も依然としてランサムウェア攻撃、標的型攻撃、DDoS攻撃が国内外で多数観測されたと指摘しています。

順位	グローバルリスク	分類
1	誤報と偽情報	テクノロジー
2	異常気象	環境
3	社会の二極化	社会
4	サイバー犯罪やサイバーセキュリティ対策の低下	テクノロジー
5	国家間武力紛争	地政学
6	不平等または経済的機会の欠如	社会
7	インフレーション	経済
8	非自発的移住	社会
9	景気後退（不況、停滞）	経済
10	汚染（大気、土壌、水）	環境

攻撃手口は一層巧妙化・洗練化しており、サイバー空間の脅威は増大の一途をたどっており、さらに、地政学リスクに起因する攻撃や偽情報拡散といった「認知領域」に関わる情報戦も観測され、国際情勢の緊張がサイバー空間に直接的な影響を及ぼしていることが明らかになっています。

← ※今後2年間に想定されるグローバルリスク
「情報セキュリティ白書2025」に掲載されている内容を抜粋

情報セキュリティ白書

2025



IPA 独立行政法人情報処理推進機構
Information Technology Promotion Agency, Japan

このニュースのポイント

Point

Q: 情報セキュリティ白書2025で取り上げられている主なリスクは？

A: ランサムウェア攻撃やDDoS攻撃の活発化に加え、国家関与の攻撃活動や偽情報拡散など。

Q: AIに関連するリスクはどのように指摘されているか？

A: 生成AIを含むAI技術が攻撃と防御の両面で利用されており、AIシステムへの攻撃や悪用が懸念されている。

Q: 日本国内で進められている国家的な対策は？

A: 2025年5月に成立した「サイバー対処能力強化法及び同整備法」、2025年7月に設置された「国家サイバー統括室」などの体制強化。

サイバー犯罪の届出件数と被害額の推移 (2020～2024年)



(億ドル)

← ※「情報セキュリティ白書2025」に掲載されている内容を抜粋

参照元 <https://www.ipa.go.jp/publish/wp-security/index.html>

事業停止50日、被害額17億円—物流会社社長が語るランサムウェア感染、復旧までのいきさつと教訓

兵庫県尼崎市に本社を置く総合物流企業が、2024年9月にランサムウェア感染被害に遭い、約50日間にわたって事業が停止、被害額は17億円にも上ったという。2025年7月末に開かれたセミナーで、同社の代表取締役社長が、ランサムウェア攻撃被害に遭った当時の状況を振り返り、被害の教訓を紹介されています。

「まさかうちがサイバー攻撃に遭うなんて・・・」

不幸にして多発するランサムウェア（身代金要求型マルウェア）攻撃の被害に遭った企業経営者の脳裏に浮かぶのは、こんな言葉ではないでしょうか。

1983年に創業した物流企業である同社の場合もそうだったそうです。セミナーの中で同社代表取締役社長は、ドラマや映画ではよく、想定外の事態に直面した登場人物がヘナヘナと膝から崩れ落ちる場面が登場しますが、まさにそんな状態で、「自分自身の無知や無力さを思い知り、いろんな感情が入り交じって、当日はもう歩けないくらい力が入りませんでした」と振り返っています。



RANSOMWARE

原因：VPN機器の脆弱性を突かれ、WMSなどのサーバが暗号化。
初動対応：緊急対策本部を設置、サイバー保険会社・警察・専門企業と連携。

経営判断：IT資産を全て捨てて再構築、約20億円を資金調達。
社内対応：社員の不安払拭のため全国拠点を訪問、残業代・宿泊費など支給。

教訓：復旧時間の短縮が攻撃の無力化につながると痛感。

再発防止策：サイバー訓練（復旧目標40分）を実施。

情報発信：書籍『サイバー攻撃 その瞬間 社長の決定』を出版、

支援サービス開始。セミナーも開催。

重要視点：セキュリティは技術だけでなく「金」「人」の観点も不可欠。



参照元 <https://atmarkit.itmedia.co.jp/ait/articles/2509/17/news003.html>



MFPを使った経理DX支援とは？ ドキュメントソリューションワークショップ開催のご案内

- **開催月日** : 2025年11月19日 (水)
- **開催時間** : 09:30~16:30
- **会場** : **キャノンマーケティングジャパン (株) 大阪支店23F**
中之島フェスティバルタワー・ウエスト 23F キャノンマーケティングジャパン (株) ショールーム

【ワークショップ内容】 各ワークショップは15分~20分を予定しています

ワークショップタイトル	会場定員	ワークショップ内容
経理DX NIコラボ360 (経費精算と名刺管理)	20名	「日経コンピュータ顧客満足度調査2025-2026」の「情報共有ソフト/サービス」部門で、「信頼性」「運用性」「コスト」「サポート」の各項目で高く評価され初の首位に輝いたNIコンサルティングがMFPを使った経費精算や名刺管理の業務改善をご紹介します。
FAX電子化ソリューション DWA	20名	まだ、日本のビジネスシーンに根強く残っているFAX業務。メール対応が増えているものの無くない紙の文化を、電子化することで、業務効率改善の方法をご紹介します。さらに、電子化した文書の検索性と電子化したデータのセキュリティ面も考慮したクラウド保管など、面倒そうな作業も簡単に実現できます。
IWDTを活用したPDF ソリューション	20名	各種文書が電子化する中で、Excel, Word, Powerpoint, PDFやCADなど、様々なデータをイメージ通りのレイアウトで印刷したい...あるいは、ひとつのPDFにまとめてデータ化したい... そんなご要望にお応えできるドキュメントソリューションをご紹介します。

Canon 会場ご案内

中之島フェスティバルタワー・ウエスト

所在地 : 大阪市北区中之島三丁目2番4号

アクセス

- ・地下鉄四つ橋線「肥後橋」駅、
京阪中之島線「渡辺橋」駅直結
- ・地下鉄御堂筋線「淀屋橋」駅下車 徒歩6分
- ・JR「大阪」駅下車 (桜橋口) 徒歩11分
- ・JR「北新地」駅下車 徒歩8分



いよいよ「Windows 10」サポート終了、対応準備は大丈夫!? IPAが注意呼びかけ

一部製品はサポート継続。使用OSの種類をチェック

2025年10月14日 (米国時間)、マイクロソフト製OS「Windows 10」のうち、「Home and Pro」「Enterprise and Education」「IoT Enterprise」がサポート終了を迎えます (一部製品を除く。)

サポート終了後はOSのセキュリティ更新プログラムが提供されず、セキュリティのリスクが増大するため、後継製品や代替製品への移行が欠かせません。また、OS上で動くサードパーティ製ソフトウェアもサポート終了が見込まれるので、それらも併せて対処しましょう。

